

# 3割増券 販売を開始

県内宿泊 17施設 「心の支え、希望の光に」

新型コロナウイルス終息後の観光需要促進を狙い、県内の宿泊施設で使える3割増利用券「みやぎお宿エール券」の販売が、21日からスタートした。南三陸町の「南三陸ホテル観洋」（阿部憲子おかみ）では、直接ホテルに訪れて購入する人の姿が見られた。6月5日まで販売する。



販売がスタートしたお宿エール券

エール券は県内の宿「阿部憲子おかみ」が手のほか、客が訪れると泊施設でつくる「みやぎ元資金確保やコロナ終り見通しを心の支えさおかみ会」（会長・息後の宿泊利用の喚起に）と企画した。

1万円の購入につき、1万3千円（千円券13枚）を発行する。利用可能期間は7月1日から12月29日までで、購入した施設のみで利用でき、宿泊代や入浴代、売店や飲食の支払いに充てることができる。会員33施設のうち、秋保や鳴子、松島など各エリアから17施設が参加。気仙沼、南三陸両市町でも気仙沼セントラルホテル松軒、サ

ンマリン気仙沼ホテル観洋、気仙沼プラザホテル、はまなす海洋館、ニュー泊崎荘、南三陸観洋の6施設で販売が始まった。

南三陸観洋では、ネット上での購入以外にも、ホテルのフロントに直接出向いて買い求める人たちの姿が午前中から見られた。福祉施設に勤める仙

台市の女性（49）は「苦境に立たされている宿泊業界を少しでも応援したいと思って来た」とフロントで買い求めた。

阿部おかみは「来ていただけたという動きが希望の光であり、従業員はじめ、宿泊関係者を笑顔にしている。来ていただいた際には、温かいおもてなしをしたい。終息後の楽しみとして、家庭の間でも話題にしてみたい」と話した。

れば」と話した。阿部おかみによると、南三陸観洋の今年2月から5月20日までの宿泊キャンセル数は3万7千件余り。県内ではどの施設も、宿泊客が前年比の1割に満たないという。元気でいられるのは、たから。受章を励みから大きな活力をもらっている」と話した。

2020年5月22日

三陸新報